

石巻焼きそば製造元の資金計画策定の支援

住所	宮城県石巻市三股3丁目1-81	資本金	900万円
代表者	島 英人	従業員数	15名
創業年	昭和28年	売上高	-
業種	麺(石巻焼きそば、うどん、ラーメン)の製造・販売		
TEL	0225-96-6355	URL	http://www.shunsenichiba.com/shimakin/

事業概要(被災前)

- ・石巻焼きそば、うどん、そば、ラーメンの製麺、製品製造、販売
- (※)石巻焼きそば: せいろ使用による風味のある茶色の麺、魚介だし、たっぷりのソースに特徴。
- ・現代表者は3代目。
- ・地元スーパー、生協、道の駅が主要販売先。
- ・無借金経営。



石巻焼きそば



石巻せいろ蒸し焼きそば

被災概要

- ・東日本大震災により、施設が全壊、設備については津波により流出 (右写真)。

石巻港から500メートルほどの場所にあった本社工場。社屋は、形は残ったが、その横にあった工場は跡形もなく全壊、流出。



復興に向けた状況や課題

震災前は無借金経営で安定した経営体質であったため、これまでは当社独自の経営・会計手法でも経営は成り立っていた。しかし、震災後復旧のため多額(億単位)の銀行借入金が発生。また、多くの取引先を失い、売上も減少したことから資金繰り計画等の計数管理の必要性に迫られていた。

課題は次の通り。

- ・当社独自の経営・会計手法からの脱却、資金繰り計画等の計数管理体制の構築。
- ・経営悪化に伴い、財務面だけでなく人事労務管理や生産管理など社内体制の諸問題の解決。



プレハブ仮設にて営業再開



震災時の支援に感謝

支援テーマと内容

年間資金繰り計画の策定と毎月の実績管理の体制構築の支援 (H25.8~H26.6)

- ・まずは現状や前年度の実績をベースに年間の資金繰り計画表を作成。
- ・その後、月1回のペースで訪問し月々の収入・支出の実績を把握。
- ・計画値と実績値とを比較検証し、原因・問題点を仮説検証して解決策を検討。
- ・銀行借入金の返済計画立案。
- ・月次決算迅速化に向けた経理指導。



震災後、地元の大学、企業と共同開発した、サバダしラーメン



グループ補助金と借入金により再建した新工場が稼働開始 (2013年3月)

資金繰り(予定・実績)表

項目	期別	平成26年1月		平成26年2月		平成26年3月		平成26年4月		平成26年5月		上期累計	
		予定	実績	予定	実績	予定	実績	予定	実績	予定	実績	予定	実績
現金繰上													
現金繰上													
現金繰下													
現金繰下													
現金繰下													
現金繰上(現金)													
現金繰上													
現金繰下													
現金繰下(現金)													
現金繰下													
現金繰上(非現金)													
現金繰上													
現金繰下													
現金繰下(非現金)													
現金繰下													
現金繰上(非現金)													
現金繰上													
現金繰下													
現金繰下(非現金)													
現金繰下													
現金繰上(非現金)													
現金繰上													
現金繰下													
現金繰下(非現金)													
現金繰下													
現金繰上(非現金)													
現金繰上													
現金繰下													

資金繰り管理体制の構築、
財務内容の改善支援

支援の成果

- 資金繰り管理体制の構築支援
これまで売上だけの管理であったが、こういった項目でどのくらいの支出があり、その結果いくら位のキャッシュが毎月手元に残るのか、経営者自身が自社の数値を把握できるようになった。
- 財務内容の改善支援
借入明細ごとの長期的な返済計画を立て、返済の優先順位を明確にして、借入金を前倒し返済することで財務内容を改善させた。
- 月次試算表作成の早期化支援
経理担当の奥様の意識改革が図られ、これまで半年以上遅れていた試算表が翌月には作成できるようになった。

支援により財務管理ができるようになり、経営体質改善を図る事ができた。また、売上実績と売上計画との乖離が明らかとなり、ギャップを埋める為の施策を打つことが可能となった。

今後の事業展開

- 販売面
地元スーパー、生協等の既存販売ルートの強化をしつつ、デパート等の大手流通業者への販売を試みることにより販路を拡大する。
- 生産面
販売拡大に対応した生産設備の拡充を行っていく。設備の老朽化に対し、修繕や入れ替えを計画的に行うことで、継続的な生産を行っていく。
- 経営体質の強化
資金繰り表等の管理を継続的に実施することにより、資金の不足等を予測する管理体制を確立する。また、売上高経常利益率、自己資本比率等の計数管理を行うことにより経営改善を行う。



事業者からのコメント

震災のあと、仮工場で再開しましたが、ようやく新工場の復旧、稼働となりました。ただ、資金繰りや会計については、管理が行き届いていない状態だったので、機構のアドバイザー支援によって、日々の資金繰りや財務内容が把握できるようになりました。今後は、管理会計の強化とともに、販路の拡大もすすめていきたいです。



有限会社 島金商店
島 英人 代表取締役社長

震災復興支援アドバイザーからのコメント

震災前までは無借金経営でしたが、復旧のため多額の借入金が発生し、また売上も震災前の水準に戻らない状況下では、今後はしっかりとした計数管理が求められてきます。社長様・経理担当の奥様とともにとても意欲的で、危機感のもと計数管理の必要性を強く感じていたように思います。無駄な借入金も整理し、月次の数値目標を設定できるまでになりました。目標未達の場合は原因分析と解決策を考えるなど、PDCAサイクルも機能してきています。



震災復興支援アドバイザー
中小企業診断士 鈴木 たすく